

震災復興に建設職人の力欠かせない 「ここでまた暮らしたい」希望与える支援行動



第1次全建総連住宅復旧支援活動



5月13日から19日、全建総連・東日本大震災復興支援ボランティアが取り組まれ、総勢120人が参加。神奈川県連からは33人の仲間が参加しました。第1陣が14日～15日、第2陣は16日～17日、そして第3陣が18日～19日に支援活動をおこないました。(東京都連41人、埼玉土建5人、千葉土建13人、兵庫県連7人、全建総連7人)

宿舎となった岩手県大船渡市三陸町綾里の岡田荘から、支援現場の大槌町桜木町までは、片道1時間半。6日間で補修した現場はのべ104件にのぼり、今後とも取り組んでほしいと熱望されました。

13日、16時に宿舎に到着した第1陣。大広間に集まり意思統一をしたあと、各自寝床を確保し、夕食をとった。(50人が雑魚寝。しかも布団は40人分、寝袋の仲間も)

作業1日目、仲間の多くが早朝5時前には起きだす。それぞれ必要な物資を車に積みこみ、お弁当(おにぎり3個・バ



ナナ・お茶・缶詰)を受け取り、宿舎を7時に出発した。神奈川県連の仲間は、チームごとに車にわかれ、目的地である東谷さん宅(流された大槌建成事務所の仮事務所)へ。途中、回り道になっていたり、片側通行になっていたり、その日その日で交通状況は変わっている。さらにカーナビはあまり当てにならない状況でした。(津波で目印になる建物・信号機・標識などが破壊されている)

現地に着き、さっそく担当ごとに現場地図・指示書(被災者の住宅復旧要望箇所など記されているもの)を確認しそれぞれの現場にむかいました。(3面に続く)

目次:

宮城県連へ 2

岩手の間に道具を 2

小笠原さん宅(鶴住居) 3
で

ここに来て本当に良かった(大川さん) 3

感謝の手紙届く 4

第34回住宅デー 4

地元の耐震化推進へ

第57回神建連定期大会が6月5日、6日開催され、「大震災復興支援!被災地の仲間と連帯し、建設労働者の社会的役割を發揮しよう」との方針を確認しました。9日早朝には仲間が届けてくれた大事な工具をトラック2台に積み込み宮城県連へと向かいました。

6月12日には地元の耐震化推進のため全県200会場で「住宅デー」が開催されます。

お近くの住宅デー会場へぜひお越しください。



「仲間に元気を届けに行こう」

朝4時、宮城県連にむけ出発（4/4配信）

孤立状態になっている気仙沼沖の大島の仲間をはじめ宮城の仲間への緊急支援物資の提出をお願いしたところ仲

間から続々と提供の申し出があり、要請数を上回る物資が次々に建設プラザに届けられました。

その中身は緊急に要請されていた発電機・ドラム・コードリール・乾電池・ブ

ルーシート、さらにカセットコンロなど多数にあがっています。現地では、物資の到着を心待ちにしていることから4月4日の午前4時に支援物資を届けに県連を出発しました。代表団はお昼に宮城県連に到着し、支援物資と支援金を届け、現地被災地を視察しました。

【4/4・宮城県連に届けた物資等】

発電機8台・コードリール12台・乾電池350個・カセットコンロ7台・ポンベ45本・軍手24セット・マスク1箱・土嚢袋400枚・ブルーシート250枚・支援30万円



仲間の支援に涙

【宮城県連・八木副会長のコメント】

今までにわかっただけで組合員が二十数名亡くなっている。家族も15名ほど亡くなった。自然エネルギーはここまでかと感じた。

全国の皆さんから多くの支援をいただき被災した仲間も涙をながして感謝してくれています。本当にありがとうございます。

一刻も早く道具届けたい 岩手の仲間に（4/17配信）

4月14日、全建総連本部より岩手建労への支援について要請がありました。被災地で復旧作業に奮闘する仲間は、自らも被災し道具が足りない状況で、現地での入手はとても困難です。緊急に支援物資の提供をお願いしたところ、2日間で各組合・支部そして青年部からの支援物資が次々に県連に届きました。仲間



の皆さんにあらためて感謝申し上げます。さっそく代表団6人が17日の朝4時前に岩手建労めざして県連を発しました。



津波で壊れたシャッターはずす



ここに50人が雑魚寝！

「娘の思い出ある家残したい」思いにこたえる。

小笠原さん宅(鵜住居)で床を剥がし、泥をかきだす

あたりは瓦礫の山、ところどころ家自体は残っているが、信号もなく、目印になるような建物も残されていない。周りは流されてきた木や車、廃材などが散乱していた。車には、警察と消防、自衛隊が安否確認した際の「×」のサイン。(家屋にも同じようにサインがあり、暗号を書いてあるのもあった)

小笠原さんの自宅は、海から三キロ離れたところにあり、それでも一階の上まで浸水。現場を確認し、どういうふうに作業をすすめていくかを小笠原さんに聞く。まずはすべての床をはがし、泥を吐きだしてから、洗浄したいとのこと。今

回の津波で、大事な娘を亡くし、さらに自分の10分あとを走っていたバスの運転手仲間も亡くした。「もう家なんてどうでもいい」、震災直後そう思った。しかし、家族の思い出のある家は捨てられないと、バール一本で床をはがしながら泥をかきだした。仕事の休みをみては一人で、休めないときは息子に頼んだ。14日、小笠原さん宅に神奈川県連の仲間6人がかけつけた。電気がまだきていないので発電機も持参。全体で32畳はあるだろう床を、いっきにはがし始め、少しでも早く洗浄できるように泥もすべてかきだしました。



小笠原さんと話す名和住対部長(写真上)、床をはがし泥もかきだした(写真下)



「この仕事をやってきて本当に良かった」

大川信さん(神奈川県横濱鶴見支部)

2日間で8件の家の応急修理を担当した。おもに床板を張り替えたり、開かなくなった扉や襖を修理して使えるようにしたりと、とりあえずここで生活するという考えながら必要な応急修理をした。床下はヘドロが凄く、それをかき出して乾燥させるよう作業した。

どこへ行っても大変感謝された。「今まで色々なところに修理を頼んでみたが、誰も来てくれなかった。もう修理は無理と諦めかけていたところだった。」と言って、「まあ、上がっていきなさい」と食事を用意してくれた。「次があるから」と断ろうとすると、それでも是非食べていってくれと言ってくれた。最後の依頼先のお婆さんは「日本人の情の

厚さが本当にありがたい。ありがとう、ありがとう」と何度もお礼の言葉を口にしていた、それを見て「この仕事をやってきて、ここに来て役に立てて本当に良かったなあ」と実感しました。本当に仕事をすることが苦にならずやりがいのあるもので、二日間はあっという間で、正直もっと居て修理をしてあげたかった。

この復興支援ボランティアの話をもらったとき一晩考えて参加を決めました。判断は正しかった。間違っていなかった。この機会を頂いたことにとっても感謝します。また機械があればぜひ参加したいと思うと同時に、ほかの仲間にもぜひ参加してもらいたいと思います。



本日のランチ。おにぎり3個・漬物・さば缶詰



岩手の仲間も神奈川と一緒に。一関組合の鈴木さん(左)と平泉建設組合の佐藤組合長



神奈川県
建設労働組合連合会
支援対策本部

「目をむけてくれていること、うれしい」

～感謝の手紙が届く～

前略。

この度の東日本大震災で多大なるお力をいただき本当に感謝の念で一杯です。余震がくるたび家がいつ潰れるか恐怖生活の中でこうして補強していただき安心致しました。

三陸海岸は海もきれいで、魚も豊富、海産物も美味しく海の宝庫なのですが、この大津波で町全体流失してしまいました。本当に残念です。そんな時、こうして皆さんに助けられ全国、全世界の方々に「有りがとう」の一言しか言い表されませんが、「目を向けてくれている」事にうれしくてたまりません。まさか、船、大木、家、人、車、線路、飲みこ

んでいまだに行方不明者が大槌だけでも900人を超えています。この恐ろしい光景が目には焼き付いて立ち上がるのし苦慮しています。

お忙しい中、足を運んでいただき本当にありがとうございました。主人も大感謝しています。復興したらきれいになった町にいらして下さい。

川崎建築労働組合 井口康明様
岩手県上閉伊郡大槌町吉里吉里
荒川



東日本大震災におきまして被災された皆さんに、心からお見舞い申し上げます。

私たち建設職人の組合は、被災地で復興支援ボランティアに取り組んでいます。今回の「住宅デ」は、地元の耐震化推進のために実施します。

家具転倒防止金具の出張取り付け

(取付け費用無料：金具代のみ請求)

耐震相談

すべての会場で無料の耐震相談を開催
訪問調査も実施ご自宅に派遣します

住まいの耐震化と家具転倒防止金具のご相談・ご予約は、
コールセンターまたは最寄の組合までお気軽にお電話ください

安心業者紹介システム コールセンター

フリーダイヤル 0120-773-967

平日午前9時から午後5時 ホームページでも受付中!

第34回

住宅デ

地元の建設職人がつくるふれあいイベント